

令和七年九月号

《第百五十三号》

しるへび

宗教法人岩國白蛇神社

〒740-0017

今津町六丁目4-2

☎ 30-3333

ながつき
長月の祭典・行事案内

【月次祭】

(九時半より)

九日(火)

二十一日(日)



【昭和天皇御製】(第一二四代)

「山口県植樹祭行事に際して」

木を植うるわぎの年年さかゆくは
うれしきことのきはみなりけり

「山口県八笈が岳の植樹」

人々とつじ花咲くこの山に鉞を手にし
て松うゑてけり

「防府市の毛利邸にて」

水清きいささ小川の流れゆくたたら
の庭の春のしづけさ

(昭和三十一年)

【白蛇供養祭】 八月十六日

第六十一回白蛇供養祭が当社の拝殿にて斎行されました。斎主を白蛇神社の平田宮司が、典儀を保存会の中村事務長がそれぞれ務めました。参加者は保存会会長、岩国市議会議長、吉川事務所、岩国市文化スポーツ振興課、商工会議所、観光協会、今津山手連合自治会、商工連盟、天神町自治会、菅原社奉賛会、白蛇神社崇敬会、白蛇神社総代長他二十数名が参加しました。当日の昼にはNHKでテレビ放映されました。



右は、八月十七日付けの読売新聞に掲載された記事です。

【神社と保存会合同での大掃除】



八月三日(日)の午後五時から、約三十名による夏の合同大掃除が行われました。今年は酷暑を避け、夕刻からとしましたが、やはり厳しい暑さでした。それでも皆さん精力的に周

辺の水路や法面の除草に励んでくださいました。ここに重ねて深くお礼を申しあげます。次第です。

【推薦図書】

『本居宣長』

一千九百円+税

「もののははれ」と「日本」の発見

先崎彰容 著 新潮選書

「・・・日本の古典を読み、文化に触れることは、その言葉を紡いできた日本人の緊張と葛藤に触れること、つまりは日本語を保持しつづけ、次世代に受け渡すことの困難を、かすかにでも感じ取る営みなのである。宣長がおこないつづけたのは、傷つきつづけてきた日本語の本来の姿、しなやかでやわらかい言葉を、私たち自身の手で再生させようとする事だった。なだらかな緑濃き山々にかこまれた『やまと』には、自然から喜怒哀楽にいたるまで、さまざまな出来事を肯定し共感する日本人の姿があった。・・・」(へあとがきより)



先崎彰容

Senzaki Akira

本居宣長

「もののははれ」と「日本」の発見



古今和歌集・源氏物語の探求から切り拓いた。独自の倫理学とは。

『世界秩序が変わるとき』

『新自由主義からのゲームチェンジ』
齋藤ジン 著 文春新書 千五十円＋税
(はじめに) から

新たなカジノのルールに乗り遅れないため

「アメリカは『ここに座れば勝つ』という
テールを、日本のために用意しています。
もともと、アメリカは善意で日本に勝たせ
ようとしているのではありません。覇権国
家は、自らの地位を脅かす存在を叩きます。
日本が新自由主義の下で徹底的に叩かれた
のも、東西冷戦下でアメリカの庇護を受け
た日本経済の勢いが本家アメリカを脅かす
ようになつたからです。しかし今、アメリ
カは中国を封じ込めるために、『強い日本』
の協力が不可欠になっています。この環境
変化は、第二次世界大戦後、冷戦下のアメ
リカがソ連を封じ込めるため、『強い日本』
を求めた時と似た状況です。...

文春新書 1478
世界秩序が
変わる時
新自由主義からのゲームチェンジ
齋藤ジン

ソロス
を
大儲けさせた
伝説のコンサル
初の著書

ヘッジファンドが見ええる
中国の衰退、復活
として日本

本居宣長の

『直毘霊』を読む (五)

神ながら安国と、平らげく治ろし
めしける大御国にもありければ、
書紀の難波の長柄の朝廷の御巻に、

「**惟神者、**
謂随神道亦自有神道也
」とあるを、よく思ふべし。神の道に随
ふとは、天の下治め給ふ御行為は、た
だ神代より有りこしまにまに物し給ひ
て、いささかも賢しらを加へ給ふこと
なきをいふ。さて、然神代のまにまに
大らかに治ろしめせば、おのづから神
の道は足らひて、他に求むべきことな
きを、「**自有神道**」といふな
りけり。故れ、現御神と大八洲国治
ろしめすと申すも、其の御世々々の天
皇の御政、やがて神の御政なる意な
るも、同じ心ぞ。神国と韓人の申し
しも、諾にぞありける。

【現代語訳】

神々の居られる安穩な国として平穩に治め
られた有り難き国でありましたので、
『日本書紀』にある難波の長柄の朝廷（孝
徳天皇）の巻に「神ながら」とは、神の道
に従ひ自然と神の道があることをいふので
ある」と書いてあることを十分に考へるの
が良い。神の道に従ふとは世の中をお治め
になるご行為については、ただ神代から行
はれてきた通りに振る舞ひなさつて少しも
賢しらぶつた振る舞ひをお加へになること
がないことをいふ。そこで、そのやうに神
代の通りにおつとりとした態度でご統治な
さると自然に神の道は十分に満ち足りて他
に求めなければならぬことがないので自
然と神の道があるといふやうにいふのであ

つた。だから、現世に姿を現してゐる神(天
皇)として大八洲国(日本国)を治めにな
つてゐるといふやうに申しますのも、その
御代御代における天皇のご統治がそのまま
神のご執政であるといふ意味なのである。
『万葉集』の歌などに、神であらつしやる
まに云々であるのも、同じ意味である。
このやうであるから、神国といふやうに韓
人(朝鮮の人)が申しあげてゐたのも尤も
なことであつた。

本居宣長と契沖 (四)



契沖の肖像

契沖は尼崎市の城下町出身で、寛永十七年
(一六四〇)生まれで、十一歳で出家し、十
三歳で高野山で修行のため入山し、二十四歳
のときに阿闍梨位を得る。二十七歳で放浪の
旅に出るまでに大阪天王寺の曼茶羅院の住職
であった。主な著書には「和字正濫抄」があ
り、史上初めて仮名遣ひを分類した。また、
水戸藩の水戸光圀から万葉集の注釈書を書く
やうに勧められてゐた歌人の下河辺長流の知
遇を得たことで、後に「万葉代匠記」を著し、
宣長には「道の学び」があることを教え、後
の『古事記伝』執筆につながる程の影響を与
へた。